

# 済 院

江津市医師会と地域医療連携推進法人を設立する済生会江津総合病院―江津市江津町

療連携推進法人「江津メデイカルネットワーク」を設立し、済生会の勤務医と市医師会所属の開業医が、双

## きょう東出雲で中日祭



権伝馬船の乗員が陸船に乗り、街中を練り歩きながら舞を奉納する。

18日の渡御祭では、城山稻荷神社(松江市殿町)の神霊が御座船へと載せられ、五大地の権伝馬船に護衛されながら大橋川を東へ移動。意宇川などを経て、阿太加夜神社に送り届けられた。中日祭は、神霊をなぐさめる神事で、7日間にわたる大祈禱の中間日に営まれる。

約700名の道のりを陸船で移動しながら、再び権伝馬船を見せる。水上よりもさらに間近で堪能できるのが、中日祭の魅力だ。

松江市を流れる大橋川などを舞台に開幕した日本三大船神事の一つ、ホーランエンヤ(松江城山稻荷神社式年神幸祭)が22日、松江市東出雲町出雲郷の阿太加夜神社で中日祭を迎える。馬瀧など五大地が繰り出す

22日午前11時40分から、剣をかたどった權を手に激しく舞う劍權や、あてやかな身のこなしを見せる采振りが乗り込んだ權伝馬船が、同神社近くの出雲郷橋付近で旋回して、權伝馬踊りを披露。午後1時10分から、同神社までの

渡御祭には前回を5千人上回る14万人が来場。令和への改元直後という奉祝ムードも手伝って、中日祭や26日の還御祭と合わせた観覧者数は、前回の36万5千人を超えると期待される。

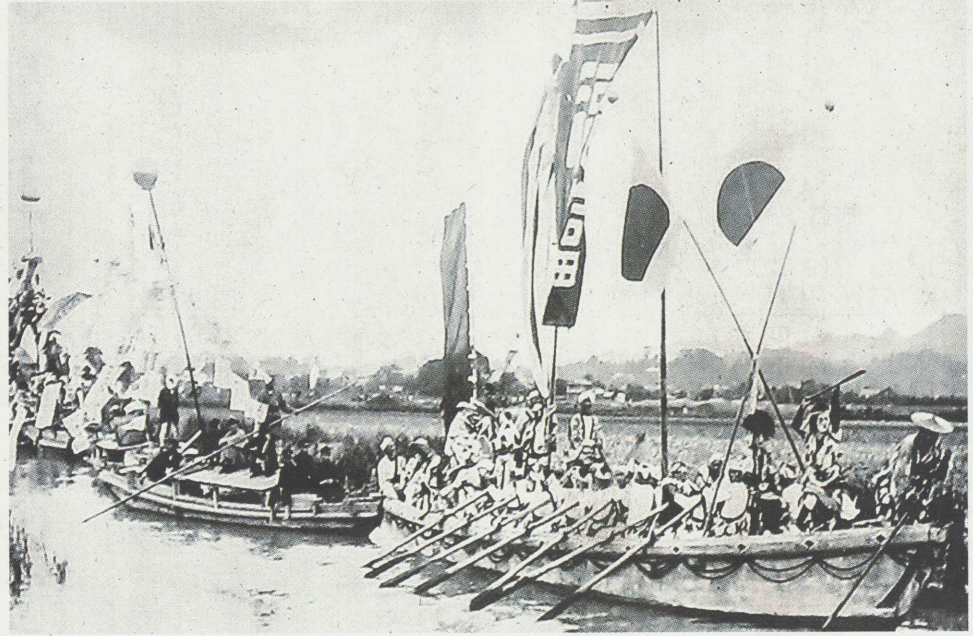
(陰山篤志)



## 權伝馬船 1929年も勇壮

大正末期に旧制松江高校で教壇に立ったドイツ人哲学者フリッツ・カルシュ(1893~1971年)が撮影した1929年のホーランエンヤの写真が見つかった。權伝

馬船など現在と変わらない様子をとらえ、神事が大切に守られてきたことを伝えている。(写真は若松秀俊さん提供、25面に記



# 90年前のホーランエンヤ



フリッツ・カルシュが撮影した1929年のホーランエンヤの写真。権伝馬船の船尾で、采振りか踊る様子をとらえている。(若松秀俊さん提供)



フリッツ・カルシュ(若松秀俊さん提供)

で、カルシュに関する著書 菅教授(72) 千葉県我孫子

## 千葉の研究者保管 変わらぬ熱気伝える

文豪・小泉八雲に並ぶ足跡を松江に残したと言われるドイツ人哲学者フリッツ・カルシュ(1893〜1971年)が撮影した1929年のホーランエンヤ(松江城山稲荷神社式年神幸祭)の写真が見つかった。権伝馬船や群衆などを切り取り、今と変わらない熱気を伝える。  
(陰山篤志)

## 旧制松江高校教師のカルシュ撮影

市が、白黒写真約20枚を保管していた。

カルシュは八雲の著書で興味を持って来日。大正末期から旧制松江高校(現島根大)で教壇に立ち、雲南市出身の医師永井隆博士や、「暮しの手帖」を創刊した花森安治氏らを教えた。カメラを愛し、松江や大山の写真を多く撮った。

今回見つかったホーランエンヤの写真は、カルシュ「若松さんは「にぎやかで豪壮な雰囲気伝わってくる。カルシュは美的感覚に優れており、白黒ながら、まるで色があるように感じられる」と話す。



若松秀俊さん



若松さんは18日の渡御祭を初めて観覧。「これがカルシュも見たホーランエンヤかと感激した。カルシュと一緒に見ているような思っていた」と語った。今後、松江市などでの写真展示を検討したいという。

が25年から14年間、松江で暮らしたことなどから、29年の撮影とみられる。日の丸の旗を立てた五大地・福富の権伝馬船や、剣をかたどった権を操る剣権、なまめかしく舞う采振りの姿をとらえている。巨